



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第31回例会(2月22日)
平成26年3月7日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 川徳デパート内	会 長 平井 滋
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)	幹 事 平野 佳則
FAX(653)5622	会 報 金子 真也
例 会 日 毎週金曜日12時30分～	クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary. Change Lives. 'ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を'…… Ron D. Burton



盛岡 RC 創立 75 周年記念例会 記念卓話

「今語っておきたい
盛岡 RC 昔話」

(株)東流社 顧問

熊谷 昭三 君

昭和 32 年 (1957) 6 月入会の熊谷昭三です。今日は盛岡 RC 創立 75 周年記念事業の記念例会卓話を担当する機会を頂きまして大変光栄に存じております。

ところで平井会長と白石記念事業実行委員長との連名の卓話依頼状を読んでもと、「クラブ草創期の話やチャーターメンバーの人となりについて」と書いてあるんです。いくら私が年寄であって、盛岡市内のロータリアンでは最も古く、岩手県内でも 99% 一番古い筈と自信はあっても、草創期の昭和 14 年は、私でも 11 歳のこと、とても無理な話だし、昭和 32 年入会時でも、創立から既に 18・9 年経っていて、記録を読んでもと、チャーターメンバーが 4 人、第二次チャーターメンバーが 13 人居られた訳ですが、57 年も前からの記憶を語れとは随分買い被って貰ったもんだ、とも思っていました。

ともかく、取り敢えず入会した昭和 32 年 (1957 年) の位置付けを理解してもらいたいのですが、先ず当クラブメンバーの 3 人に 1 人、23、4 人がそれ以降に生まれた人で構成されていることです。

更に、私の次に入会歴の古い村井研一郎さんの入会が 9 年 4 ヶ月後、次に古い川村登さんが 14 年 2 か月、三番目に古い佐藤義正さんが 17 年 1 か月、名前を出して恐縮ながら小川 P・G は 18 年 11 か月後の入会であって、いかに昔の事であるか判って頂けると幸いです。

ということで、依頼された内容より少しずれ

るけれど、入会の昭和 32 年から昭和 45 年頃までの〔伝聞でない、しかもなるべく記録に残ってない実話〕を中心に話をしてみたいと思います。そこで

- イ) 県内に盛岡のほか、釜石、花巻にしかロータリークラブが無く、北海道、東北が (250 地区) で、ガバナーが連絡船で北海道からも来たり、メークアップがとても難儀だけれども、RC バッジに大変權威のあった時代。
- ロ) 昭和 33 年に盛岡市内に盛岡北ロータリークラブが誕生し、環境変化が始まり、クラブ新設ラッシュ時代の到来。
- ハ) 昭和 36 年東京晴海で国際ロータリー大会、Big Friday の年表にも記載漏れ。
- ニ) 昭和 36 年佐藤武夫氏ガバナー就任、盛岡で初の 352 地区年次大会開催。
- ホ) 昭和 41 年村井源一氏ガバナー就任、地区協議会開催。
- ヘ) 昭和 44 年創立 30 周年記念式典の大好評だったブレン・ストーミングの時の知られざる秘話。
- ト) R.I への英文報告書に悩まされた歴代幹事。等等時間的許す範囲で話をさせて頂きたいと思います。

●入会の頃～

ロータリーバッジに權威があった時代

昭和 32 年 6 月入会同期生は、巖重右工門さん、東元淑さん、平井冽さん、と熊谷昭三「29 歳」の 4 人で、会長は池野藤兵衛さんでした。

皆若手で働き手を期待されたようです。

私などは役に立つ能力もないので、せめて出席で貢献しようと釜石にも花巻にもメークアップに行きましたが、どちらも例会場は岩手銀行の支店で、岩手銀行さんそしてあとで触れると思いますが雫石隆孝頭取、安彦要副頭取はそれぞれ違った意味で大きくクラブに貢献されていると思います。

例会場の川徳さんの食事は美味しい筈なのですが、初めのうちは緊張感で全然味なんて判りませんでした。その頃は1番テーブルから7番テーブルまであり、各テーブルに6~7人ずつ毎月テーブルが指定され、特定の人達が固まる事もなく交流と理解が深まるようになっていて、100%出席のテーブルを毎月会長が発表してました。そして欠席者は毎週の会報に名前が載せられてました。入会時の会員紹介記事は、かなり微に入り細に渡り詳細でした。話の糸口を与えてくれるもので、情報保護のもと無味乾燥な紹介が多くなった今とは大分違いました!!

仕事は次々と沢山と与えられましたが、成果が上がるとキチンと評価してもらえるので(といっても実際は親睦委員長を落第させられて2年続いてやらされたり)でしたが、遣り甲斐があって結構頑張ったと思います。

その頃の印象としてガバナーは皆さん大変立派な方々ばかりで、公式訪問は敬意をもって緊張してお迎えていましたが、中でも昭和33年~34年時、北海道から伊部政次郎ガバナー(後のジャックスの創業者)を迎えた時は随分緊張感があったのを憶えています。

その頃盛岡市内にロータリアンは未だ50人位しかいない訳ですから、ロータリーバッジには大変な権威があって、名誉を汚さぬよう飲み屋さんに行くときは大概外すよう心がけていましたが、銀座とかで外し忘れていて目聡く見つけられ、若僧を大人扱いしてくれたものです。

バッジに一番感動したのは、昭和40年(1965年)に初めてアメリカに行ったときです。

当時のアメリカは人種差別が残っていてトイレがホワイトとカラードに分かれていることが多くありました。まずハワイに渡り、2・3日過ごし、いよいよ本土に入る前、我々はどっちに入ればいいのかと不安が渦巻きました。何しろ添乗員が、「そこの状況次第です。」と煮え切らないのです。

不安を抱えてサンフランシスコに着いて、入国はハワイで済んでる筈なので多分税関だったと思うのですが、提示したパスポートを返す時に「サンキュウ サー」と云ってくれたんです

ね…、え!俺に「サー」をつけるの?全く驚きでした。

又トイレの話で恐縮ですが、昔は大概のトイレにチップ番がいて、なかには恭しくタオルを差し出してくれるところもあったりで、チップの対応の要領をのみ込むまで一寸大変でしたが、大体まともな額のチップで「サンキュウ!」、あいにく小銭がなくて仕方なくお札で桁外れの額をやると、「サンキューベリマッチ」で、二桁外す物好きがいらない限り「サンキュウ・ベリマッチ・サー」になる事はない、ぐらいは経験として知っていましたから…。

「サー」をつけて貰ってすっかり自信がついて、「オイ!俺たちはホワイトに入るぞ。」と宣言し、半月余りの米国本土初の旅をトイレに関してはつつがなく終えました。が、3週間を超える旅行期間を終え、あの「サンキュウ・サー」はロータリーバッジへの敬意以外どう考えても思い当たりませんでした。なにせ未だ30代の若蔵でしたから。

こんな関連の話は喋り出すと際限なくあるので、既くない後ろ髪を引かれながら次に進みます。

●盛岡北ロータリークラブへ

クラブ新設ラッシュ時代

入会の翌年、盛岡北ロータリークラブが誕生しました。特別代表は村井研一郎さんのお父様の村井源一さんでした。当初は河北地区の会員が何人か新設の北クラブに移って指導しチャーターメンバーの中心になればいいという話が出ましたが、みんな嫌いだやだと反対で沙汰やみになりました。このことはBig Fridayの60ページに「盛岡北 RC 結成秘話」として実名入りで載っています。

その結果出来上がったのは、少し言葉が悪いのですが盛岡クラブに入りたけれど、職業分類一業種一人の極めて厳格な時代のためロータリーに入れなくて悔しい思いをしていた業界二番手の人達が中心のクラブが出来ました。年齢層は壮年期主体の血の気の多い、積極的な人達がいるクラブのようでした。

前にも話した事がありますが、ダンスパーティー開催を呼びかけてきたり、合同新年会を申し込んで来たりと、かなり積極的で一度は昭和34年に合同新年会もやりましたが、皆から「つまらなかった。」の意見で、一年切りの翌年からはお断りでした。

盛岡クラブに対する対抗意識は極めて旺盛で、中でも出席競争は物凄いもので、何年間か100%出席を持続させ当クラブを圧倒し、地区でもずば抜けてました。しかし、そんな無理は

永く続かず、出席100%維持のため病気の人を一時退会にしたり、海外旅行を出席免除にしたり等の、勝手なローカルルールを作って対応していると噂が流れて来る様になりました。

そんな時、盛岡クラブのルールブックと云われた佐藤武夫さんは、既にバストガバナーでしたが「噂話に右顧左眈せず、盛岡クラブはあくまでも自然体で行きましょう。」と諭されました。私は、これが我が盛岡クラブの自然体の始まりだったんじゃないかと記憶しております。

しかし、60歳の壮年も10年経てば70歳。15年経てば75歳で、年齢層が集中していると引退も同時期に重なり、ある時期クラブの力が急速に弱まった印象を受けました。

やはりクラブの健全さの維持には、青・壮・老?の年齢構成のバランスがとても大事だと思っております。そして出席競争の疲れが未だ尾を引いているのか、出席競争がトラウマになっているのか北クラブさんの出席率は60%と未だ惨たんたる状況ですよ!!

この盛岡北ロータリークラブ設立を期に、その後の10年間に県内に20のクラブが誕生しております。その頃が本当に新設ラッシュの時代でしたが、孫クラブが誕生すると盛岡クラブの遺伝子がぐっと薄まるもんだな!と感じた時期でもあります。

●昭和36年国際ロータリー大会での出来事

昭和36年5月29日第52回国際ロータリー大会が、東京晴海の貿易センターで開催され、私も出席しているのですが、この記録が我がクラブが誇る50年史Big Fridayの年表にも記載漏れになっているのです。

では何故それを鮮明に記憶してるか話しますと、この大会は岩戸景気下のマンモス大会になり、世界中から2万3千人ものロータリアンが集い、第一会場は外人とお偉いさんしか入れず、我々下っ端は第二会場でテレビで見ただけでした。その鬱憤晴らしなのか、終了後、何人かの仲間と連れ立って銀座で飲んでいました。一緒に誰が居たか、どの地域で、なんという名の店かは一切忘れましたが…。そこへ「盛岡ロータリークラブの熊谷昭三さんと云う人いませんか?」という搜索の電話が入ったのです。「何で初めての知らない店が判ったの? 恐らく心当たりの店を何十軒と電話して探したんだろうな…誰からだろう?」と、驚きながら、電話に出てみると、実は探されていたのは私ではなく、私共の得意先である宮古クラブの会員さんで、その時「三陸海岸に広く山林火災が発生し、フェーン現象で3日間も燃え続けた火が裏

山に迫って来たので直ぐ帰れ。」と、伝えたいけれどホテルにもいないし…。私を探せば少しは知名度が上なので何とかなるのでは?という事だったようです。

その人とは一緒ではなかったのですが、幸い何処かで見つかって、夜行に間に合い帰られましたが、当時の銀座に何軒の店があったか想像も付きませんが、携帯電話など勿論ない時代。長距離電話も待たないと繋がない時代で、飲食店組合的などところが協力しない限り出来ない事だと思のです。ロータリークラブの威力って凄まじいな、と本当に驚きました。

Big Fridayには〈翌月6月16日三陸火災に見舞金を贈る〉と記載されています。

●昭和36年佐藤武夫氏ガバナー就任、

盛岡で初の352地区年次大会開催

昭和36年(1961年)は更に華々しい年でした。佐藤武夫さんが352地区(東北6県)ガバナーに就任され、9月8日~11日の4日間、盛岡クラブがホストで地区年次大会が県公会堂をメイン会場に開催されました。

前年度会長は南部家44代御当主南部利英さんでしたが、東北六県の、或いは全国からお客を迎えるには一お殿様が会長であって頂くのが最も相応しいと、みんなの要請を請け留任されました。南部利英様は一条家の御出身で、南部瑞子様とご結婚された訳ですが、東大の仏文科出の、お公家さんの教養をも身につけられた端正なお顔立ちの大変立派なお殿様でした。ある時、日本語の全く出来ないドイツとフランスの青年が来た時、ドイツ人だけがお医者さんと片言で会話していて、傍らに淋しそうにしていたフランス人に、殿様がフランス語でお声をかけられ、青年を驚喜させた光景が今でも鮮明な記憶とし残っています。

話を戻して、前年度幹事は川村徳助さんで、こちらと一緒に留任かと思っていたらビックリ!! 幹事は留任でなく、どういう風の吹き回しか当時33歳の私に幹事の御指名があったのです。正に青天の霹靂、碌に物事を知らない若僧で随分ご迷惑をかけたと思いますし、私にとっては緊張の1年でしたが、全く違った知らぬ世界を数々気付かせて頂きました。後年どれだけ宝になったか計り知れません。

・地区大会は

大会役員として

ガバナー

ホストクラブ会長

大会委員長

大会副委員長

○佐藤武夫

○南部利英

○村井源一

○池野権治○川村英三・

幹事 田中正一郎（盛岡北）
 熊谷松男
 副幹事 川道喜六・赤松 淳（盛岡北）
 S A A ○池野健三郎（藤兵衛）
 副 S A A ○佐藤庄兵衛・
 巽岩信太郎（重右エ門）
 会計 ○安彦 要
 大会委員として
 広報委員 ○川村徳助・熊谷昭三

の構成で、登録料は 352 地区内 3,000 円、地区外 3,500 円で、昭和 35 年駒龍での新年会会費が 1,000 円の時代ですから、これはかなり高い!!

注 ◎は第一次チャーターメンバー、○は第二次チャーターメンバー

- ・大会プログラムの表紙
 平泉中尊寺国宝華鬘をあしらったもの。
- ・メイン会場 県公会堂
- ・晩餐会場 上田の盛岡市体育館

77 クラブから 614 名の参加では収容出来るのはここしかなく、床にビニールシートを敷き天井にモールを飾っての大晩餐会でした。料理も立派な御馳走でしたがが音声装置が悪く声が通らず難儀しました。

・分科会場

公会堂だけでは捌ききれず、岩手銀行（今の中の橋支店）と岩手県庁二階中央正庁（今の県庁は昭和 40 年 4 月落成なので、総檜作りの二階建の前の時代の建物）も使っています。

因みに、先年物故した橋本昌幸君は、会場を飾る生花を生ける仕事に携わりその豪華さと内容の素晴らしさに驚きロータリーに関心を持つ切っ掛けになったと述懐しています。

会場の飾りも立派なら昼のお弁当も豪勢で、盛岡クラブの総力を挙げた見事な大会で有ったと思います。ご婦人方も樹掛の総動員で、接待や案内に大活躍されました。

大会は大成功でしたが、私にとってはとんでもない不幸が起りました。

ホストクラブ委員会の中で、最も信頼され懸念を持たれなかったのが観光委員会でした。委員長は盛岡鉄道管理局長で、御座敷列車の発案者 金沢寿人さんでしたから…。なにせロータリーの家族会で龍泉洞、浄土ヶ浜観光に岩泉線、山田線に二等車を連結してくれたり、サービス精神と実行力には全幅の信頼があったのです。ところが、大会直前大阪鉄道管理局長に突然の転勤です！副委員長は北 RC 会員で、「私は知りません。」…後、誰がやる？皆それぞれ役割があって重任は無理でした。「幹事！お前がやれ！」とひどい話になりました!!

慌てて盛鉄へ行きましたが、申し送りも手掛かりも掴めず小岩井農場にも申込みはなく、その頃新入会員だった小田潔さんと小岩井農場の牧野をビールやサイダーを担いで汗だくで走り廻り、大変なストレスのなか小岩井観光を申し込まれた方々に、不十分で申し訳ないと心中詫びながら、何とか急場を凌ぎました。

この件以降、暫く転勤族には大切なポストは任せるべきでない…の風潮が継続したと思います。

小岩井観光は散々でしたが、4 日目の平泉観光では、一関クラブが「前の年出来たばかり」なのに、菅原清蔵さん以下委員の人達が万全の準備をして下さり、本当に浄土に居る心地で過ごしました。後年一関クラブの創立 20 周年の時、私が会長でしたので、祝辞の中で心を込めて感謝のお礼を申し上げて参りました。

地区大会は、ガバナーのマンスリーレターの予告では記念講演が金田一京助さんだったのが、当日は毎日新聞社長の上田常隆さんになったり、まだまだいろいろな事が有るのですがこの辺で切り上げて…。

村井源一パストガバナーや安彦要さんは大功労者なので触れる予定でしたが、今日は時間的に無理なので、村井さんは昭和 41 年 7 月盛岡の教育会館で地区協議会を開催しておられる事と、7 つのクラブの特別代表を務めておられますし、一方、安彦さんは 6 つのクラブの特別代表を務められておられます。お二人は新クラブ創設の岩手県の記録保持第 1 位と第 2 位で、この記録は破られる事はないだろうという事だけ申し上げておきます。

●昭和 44 年創立 30 周年記念式典ブレーン・ストーミングの知られざる秘話

昭和 44 年（1969 年）2 月 21 日、創立 30 周年記念式典が行われ、記念例会でのブレーン・ストーミングは、並みいるパストガバナー達を叫らせ、流石に盛岡クラブは凄い！と、その内容の素晴らしさは後々迄語り草になったのでありますが…実は、それは或る偶然から生まれたものでした。

時の川道喜六会長から指名発表された式典準備委員は、委員長前年度会長の K 氏、（敢えて名誉のため K 氏にしておきます）副委員長川村徳助氏、大会幹事熊谷昭三で役割を指名されれば是非引き受けなければならぬ暗黙のルールがクラブに厳然と存在した時代です。

Big Friday には綺麗ごとしか書いてないのですが、大会幹事は当然委員長に「式典の打合せの日程は何時なら宜しいですか？」とも「ど

うしてもお時間が取れないならお考えの概略をご指示下さい！」とも云っても「時間がなくなって来たのでプログラムに載せる挨拶原稿を書いて下さい！」等々と、何遍もお願いしても「時間が無い。」「そんな暇ない。」「幹事よきに計らへだ！」とか「幹事一任だ！」てな調子で…幹事一人で式典準備が出来る訳がないのに、全く箸にも棒にもかからないのです。

前年度会長でロータリー疲れやら県議会議長の要職でお忙しい事は良くわかるけど、余りにも誠意の無さに困り果て、川村徳助副委員長に実情を報告し泣付いた訳です。

温厚な川徳さんも心配しておられたようですが、経緯を聞いて流石に「そりゃひど過ぎるね！時間がない。大変だよ！」と、怒りを込めて覚悟を決められ「もう日程も迫っているし、委員長を一切外して式典プログラムを組むより仕方ないね！」と、悲壮な思いで非常手段の強行を決意する事に至ったのです。

ところがクラブ会長の挨拶だけでは例会の時間が埋まらないので、苦し紛れにブレーン・ストーミングでもやろう！の感じで。1) 魅力ある例会にするには 2) 会員の参加意欲向上策 3) ロータリーの本質と現下の反省点 4) 何がロータリーを亡ぼすか、をテーマに決め、モデレーターを選任して当日を迎えました。が、作業の方は前週の2月14日の例会で、式典の内容を副委員長の川村徳助さんに発表してもらうギリギリの綱渡りでした。

式典当日、当然欠席だと思っていたK委員長さんが出て来て、「俺の出番は何処だ？」「ハイありません！」「エ！本当にないの？」「ハイそうです。幹事一任とおっしゃいました。」

一瞬気まずい空気だけど、その間の事情を知ってるのは川徳さんと私の二人だけです！

式典の例会が始まると、我々二人は舞台の陰に隠れて成り行きを心配して進行状況を聞いて居りました。

いよいよブレーン・ストーミングの時間になると、モデレーターも真剣で予測を超えた白熱の議論になりました。二人で「旨く行った。」と先ずは胸を撫で下ろし、偶然にも二人がそれぞれパリで買っていたデュボンの黒漆塗りのライターで、美味しくタバコを吸いながら「ヤッテル・ヤッテル」と、喧々諤々の討論を聞いていました。

なにせ岩手医科大学長の篠田糺先生（日本産婦人科学会初代会長を務められた学会の権威で、哲学者、偉ぶるところが全くない人格者）や岩手銀行の雫石隆孝頭取（東大経済卒で盛商や白

梅で教鞭を取られ〈ジョイスの創業者小刈米瑞代さんは教え子の一人〉、県の出納長を経て岩銀の頭取になられた方で、博識と人脈の広さは天下一品) など、岩手県の良識を代表するような人達が、率先して格調高い議論を展開して下さったので、当初予期せざる大成功大収穫を収め、盛岡クラブの名声を高める結果となったのです。

川徳さんと私は、式典前の記念撮影の直前に舞台裏から出て来て、端の方に潜り込み記念写真にはちゃんと収まっています。

式典は川道喜六会長の格調ある立派な式辞。村井源一バスターガバナーの「盛岡ロータリークラブ30年の歩み」「創立、解散と盛岡木曜会の発足、国際ロータリーへの復帰と再承認、再承認後の活動の概要、等」の詳細な説明がありました。記念事業発表では、1) 県立図書館に盛岡ロータリー文庫設置 2) ロータリー財団に基金贈呈。を実施しまして…、委員長の出番がなくても何の違和感もなく、式典は大好評裡に無事終了しました。

但し、プログラムに載せた式典準備委員名に付けるべき役割を、事の成り行き上一切カットしたので、「30周年は誰がやったの？」年数が経って聞かれても、「さあて！」と、答えてきましたが、本日実態を白状する次第であります。参考までに、ブレーン・ストーミングに参加し発言している人は、現会員の中では村井研一郎さん唯お一人になってしまいました。

● R.I への英文報告書に悩まされた歴代幹事

最後に、昔はR.Iに出す文書は全部英文でした。これが歴代幹事を苦しめたものです。今と違って50年前には英文を扱える人は極く限られていたし、パソコンもワープロも当然ない時代です。鈴木貞雄さんも買ったそうですが、私も平金さんから10ページか20ページ程度の報告書の為に英文タイプライターを買って悪戦苦闘しました。最後は佐藤武夫バスターガバナーのご厄介になりましたが、日本語で良いとなった時、古い幹事経験者は、皆羨ましいなあと一緒に云いましたね！

それと、私なんか為替が360円時代ですから、ボールハリス・フェローの値打ちが全然違ったなと思ってます。自分のはマルチプル・フェロー二段目以上になる筈だと勝手な自負をしております。

以上なるべくチャーターメンバーに触れるように心掛けた事と、事務局の山上さんが、古い資料の発掘に多大な尽力をしてくれた事を付け加え、卓話を終らせて頂きます。



盛岡ロータリークラブ創立75周年記念例会 平成26年2月22日 於/盛岡グランドホテル

例会報告

**第31回例会
平成26年2月22日(金)**

於 川徳 12時30分 開会点鐘
 ・司会 平井 滋会長
 ・ソング それでこそロータリー
 ・会長挨拶 平井 滋会長
 物故会員へ黙祷
 ・会長報告 平井 滋会長
 ・ゲスト 達増拓也様(岩手県知事)。
 ・ビジター 池野和夫さん(元会員)・小野寺惇さん(元会員)・勝雅行さん(元会員)・坂下陽市さ

ん(元会員)・菅野慶四郎さん(元会員)・民部田義男さん(会友)・齋藤英紀さん(東京支部会友)・風間忠男さん(仙台支部会友)。
 ・皆出席バッチ 千葉隆史君(4年)。
 ・幹事報告 平野佳則幹事
 ・委員会報告

18:20 乾杯 村井研一郎会員
 懇談(祝舞2曲)
 20:00 中締め 川村 登会員

【ニコニコBOX】

本日発表の21件のニコニコは、誌面の関係上、次号に掲載致します。

●メーキャップ
 盛岡西R.C.=福田・星・高柳君。
 盛岡東R.C.=金子・竹中・吉田(幸)・佐藤(仁)君。クラブ委員会=千葉・平井・藤村(文)君。

創立75周年記念祝賀会 18:00～
 司会進行:福井誠司会員
 18:00 式辞 平井 滋会長
 18:05 祝辞 達増拓也岩手県知事
 18:10 記念事業発表 平井会長より達増知事へさくら植樹目録贈呈
 18:15 祝舞 盛岡芸妓 1曲

出席報告 会員数/69名 出席数/50名 出席率/76.92% 前々回修正出席率/80.00%

- ・3月 7日(金) 新入会員卓話 佐藤仁志 会員
 「やまのはなし～岩手山～」
- 14日(金) 環境保全ポスター表彰式
- 21日(金) 祝日休会(春分の日)
- 28日(金) ゲスト卓話 森 義真様(石川啄木記念館 副館長)
 「石川啄木と盛岡」
- ・4月 4日(金) 卓話
- 11日(金) 卓話
- 18日(金) 卓話
- 24日(木) 観桜会(25日例会変更)

プログラムの
お知らせ

●本号編集担当/金子 真也
 ●次号編集担当/藤田 治彦